

令和7年度シーズンにおける広島かきのへい死状況について

1 概要

今シーズンのかき出荷は、令和7年10月20日（月）から開始されたが、主に呉市から東部の海域にかけてのかき養殖業者等から、「かきが大量に死んでいる。」との多くの連絡があったため、現在把握できているかきのへい死状況について報告する。

2 現在把握しているへい死状況

(1) 調査方法

出荷を開始している漁協や生産者から聞き取り及びむき身調査により、現在の状況を把握した。なお、聞き取り調査は、出荷を開始している一部の生産者に限られており、養殖期間の長く、平年から比較的へい死割合が高いかき（「ノコシ」と呼ばれる3年養殖かき）についての情報が中心である。

(2) 聞き取った情報（まとめ）

- ・ 9月下旬から10月上旬にかけて大量死が起こった。
- ・ 音戸大橋や倉橋島から東側に位置する海域のかき養殖漁場で被害が大きくなっている。
- ・ ノコシだけでなく、小型のかきも死んでいるという報告もある。
- ・ 一方で棚にかかっている種苗（種がき）に大量死は見られない。
- ・ 二倍体、三倍体に関係なく、大量死が起こっている。
- ・ 垂下連の下側だけ多く死んでいるケースもあれば、上から下まで全部死んでいるかき筏もある。
- ・ 経営的な情報としては、運転資金に対する不安と、将来のかき養殖に対する不安を感じる業者が多い。

(3) 原因

水産海洋技術センターにおいて、国内外の調査研究による論文・報告などから、かきの大量へい死の要因と考えられる事項について検討したところ、高水温と高塩分の環境に同時にさらされた結果、かきが生理障害を引き起こしたと推定されている。

3 今後の対応

県中部海域などにおいて発生したかきの大量へい死について、現時点で水揚げを実施していない養殖業者の状況を引き続き把握しつつ、早期に原因分析を行う。また、次年度シーズンに向けた効果的な対策を検討し、かき養殖の経営の安定化を図る。

参考

地 区	聞取り情報
大竹地区	- 一部の業者が出荷、詳細はまだ。5割くらい（平年並み）はへい死しているとの情報あり。 - 阿多田島周辺の漁場に入漁しているかきのへい死は4割程度（平年並み）。
廿日市地区	- 一部の業者が出荷、詳細はまだ。 9月までは大丈夫で、10月中旬頃から死んだかきが増えたと推測。 - 垂下連の下側のほうが全滅。モニタリング調査で、10月上旬の貧酸素がひどかった。 - 大黒神島の漁場に入漁している筏を持ち帰ったらほぼ全滅。
広島地区	9月はへい死が1割だが、10月に入って5割に増加。 - ヨクセイ（2年養殖）のへい死は、多くない模様。
坂町地区	- 漁協の前の漁場は全滅に近い。 - 漁場が浅いので、酸欠が原因との情報あり。
江田島地区	- 出荷が少なく、情報が少ない。 - 生育が悪いという話は一部あったが、特に騒ぐほどではない。
呉市（島嶼部）	- へい死は最近起きたようで、まだ腐敗臭がある状態。 9月の終わりから、10月初めにかけてへい死した様子。 - かきの大きさ、二倍体、三倍体に関係なく死んでいる。 - 信漁連の通常融資では上限額が少なすぎて、救済にならないかもしれない。 - 災害認定してもらって、融資の返済据置をお願いしたい。 12月までに何らかの措置がないと、運転資金がショートする可能性がある。
呉市（阿賀・安浦）	- 阿賀地区の地先も、情島周辺もへい死状況がひどい。 10/20から出荷する予定の業者が、全く出荷できない状況。 - 安浦地区は、いつ出荷が始められるかも見通せていない業者が多数あり。 - 来年出荷予定のかきも多くがへい死しており、次年度以降の経営も不安。
東広島地区	9月末に酒祭り用の殻付きかきの準備の際には、身入りも良く、問題もなかったが、それ以降に大量死したと考えられる。 - 二倍体同様に、三倍体も大量死している。 - 死んだかきの多いかき筏を水揚げして、新しい種苗を本垂下しているが、来期も同様なことが起きるのではないかと不安。 - 来年出荷予定のかきも多くがへい死しており、次年度以降の経営も不安。

東広島地区	・ 垂下連の上下にかかわらず死んでいる。来年出荷用のかきも大量死していて、資金繰りにも不安がある。 ・ 例年の2倍くらいの垂下連を水揚げしても、午前中でむき身作業が終わり、20～40 kg程度のむき身出荷しかできず、給料の支払いに不安がある。 ・ 今シーズンの資金繰りへの支援と、原因究明をお願いしたい。
大崎上島地区	・ 二倍体で7割以上、三倍体（昨年春購入）で5割、三倍体（昨年秋購入）で1割程度がへい死。 ・ だらだらと死んでいる様子 ・ 夜光虫と大型植物プランクトンのかたまりと思われる糸状の浮遊物が多い。
尾道地区	・ 約2年間養殖しているかきも、今年春から養殖しているかきも同様に死んでいる。 ・ かきは6月頃から大きくなっていない。 ・ 死んだかきは白く、腐敗臭があり、へい死直後と思われる個体が多い。
福山地区	・ 9月下旬からへい死が増えて、10月中旬からへい死がさらに増えた。へい死して間もないかき殻も多かった。 ・ 水温は9月中旬まで30℃以上の水温が頻発して、9月下旬から急速に低下。 ・ 種苗の購入先（民間業者、栽培協会）で差異はなく、養殖場所についても差はない。